

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 9月 30日

事業所名 放課後等デイサービス事業所キッズハウスピッピ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		時間別にエリア分けをし、十分な支援体制が構築できている。活動内容によっては、隣接するあかしや寮グラウンドや多目的ホールを活用し、のびのびと活動ができるよう場所の提供を行っている。	建物自体は、スペースが限られているが、活動内容に合わせて、今後もエリア分けや活動場所の確保を行っていく。
	2	職員の配置数は適切である	5		適切な配置をしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	スロープや手すり等、バリアフリー化された造りにはなっているが、全体的に各部屋のスペースが狭いため、怪我や事故の原因となる物は排除し、安心安全に過ごせる空間作りに努めている。	今後も、怪我や事故の原因となる物は排除し、安心安全に過ごせる空間作りに努めていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		PDCAサイクルを常に意識し、業務改善に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		年1回、保護者様・利用者様対象のアンケートを実施し、業務改善に繋げている。	アンケート結果から明確な課題や問題点を見出して、確実な改善に繋げることが出来るよう検討し、実践していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページにて公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5	第三者による外部評価は行っていないが、定期的に自己評価を行い、業務改善に繋げている。	第三者による外部評価の実施を今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		事業所内研修、外部講師による研修を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	担当職員が中心となり、利用者様や保護者様のニーズや課題などを確認しながら、必要な支援を見出し、計画を作成している。	直接的な支援に関わるアセスメントについては、これから十分改良の余地があるため、アセスメント方法の見直しや改善を行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	4	生活面、行動・社会性に関わるアセスメントシートに、利用者様の実態について保護者様に記入していただき、利用者様の状況を把握している。	標準化されたアセスメントツールの作成を行い、より良い支援に繋げていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		季節に合わせた活動や個々に必要な活動を話し合いによって決めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		利用者様が「楽しい」と感じられるように、興味のあることや利用者様の意見を取り入れながら、内容を変化させるなどして工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		長期休暇などは、季節に応じた屋外活動等を取り入れている。個々の支援提供時間や体調等に合わせて量を調節しながら、自立課題に取り組む時間を設けている。	

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5		個別活動と集団活動を組み合わせた活動の提供を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		支援内容や役割分担の他にリスク管理などを行い、トラブル発生時にスムーズに対応出来る体制を整えている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	送迎業務のため、その日の振り返りは難しいため、翌日の朝に話し合いの場を設けている。日誌等を活用し、情報共有が出来るような対策をしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		毎日記録を行い、支援方法に改善点や問題点があった場合には、会議を開催して解決策を講じている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		定期的にモニタリングを行い、見直しが必要な場合には、その都度計画変更を行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5		ガイドラインを全職員が熟知し、支援を行うことができるよう努めている。	複数組み合わせて、支援内容を更に充実させていきたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		児童発達管理責任者、担当職員が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		学校への送迎や関係機関連携会議を通して、担任の先生と情報共有、支援内容のすり合わせを行っている。下校時刻、行事等の予定については、保護者様からも情報を頂き、トラブル発生時には、迅速に対応出来るような体制を整えている。	災害時等は、電話不通も考えられるため、今後、保護者様の連絡先としてメールアドレスを頂戴する予定。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5		救急連絡シートを保護者様に記入していただき、体調面で救急な対応が必要な場合にスムーズに対応出来るよう体制を整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4	就学前の情報は、保護者様、相談支援事業所、地域の保健師から必要に応じて情報提供をいただいている。	必要時には、出身の事業所等と情報交換し、より良いサービス提供に繋げる。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1	該当利用者様は居なかった。(情報提供を求められていない。)	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	児童発達支援センターではないが、心理学・カウンセリング専門の講師の研修を受けている。	必要時には専門機関との連携を取り、研修などには積極的に参加していく。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	新型コロナウイルス感染症流行前には、利用者様が在籍している学校へ伺い、学校敷地内の沼の生き物観察を活動として取り入れるなど、障がいのない子どもたちと交流する機会を設けた。	新型コロナウイルス感染症対策の観点から、外出や外部との交流は控えているが、新型コロナウイルス感染症終息後、障がいのない子どもと交流出来るような活動を検討予定。	

関係機関や保護者との連携	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5	管理者が参加している。		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		5	送迎時等に、その日の様子をお伝えし、保護者様からの困り事などの相談があった際には、随時対応している。		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5	ペアレントトレーニングは行っていないが、保護者様と情報共有や共通理解を図り支援にあたっている。	今後、事業所内研修でペアレントトレーニングについての理解を深める機会を設ける予定。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		5	文書にて明文化しており、契約時に両者にて読み合わせを行い、各1部ずつ保管している。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		5	その都度対応している。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5	事業所独自の保護者会等の設立にはまだ至っていないが、法人全体の保護者様による「手を繋ぐ育成会」は組織化されている。	保護者様同士の交流も現在新型コロナウイルス感染症対策の観点から行っていない。新型コロナウイルス感染症終息後、事業所単体での保護者会等の設立を検討予定。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		5	これまで苦情はないが、苦情があった場合の体制を整えている。事業所内に意見箱を設置している。	今後苦情の申し立てがあれば、その都度迅速に対応していく。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		5	保護者様、市町村役場、学校等に広報を配布している。大型ショッピングモールに掲示するなどして、情報発信している。		
	35	個人情報に十分注意している		5	個人情報について、関係機関への開示、法人広報、メディアへの画像記載などは契約時に個人情報開示書にて、開示の可、不可の確認をしている。各自のケースファイルは厳重に管理し、外部者の目に入らないように保管している。		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		5	合理的配慮の元、状況に応じて個人のスキルに見合ったツールを使用している。		
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	2	事業所独自で開催している行事は無いが、法人全体で地域住民が参加可能な行事を開催しており、毎年多数の来場者がある。	新型コロナウイルス感染症対策のため、計画していないが、新型コロナウイルス感染症終息後、事業所独自の行事等を検討予定。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		4	1	各マニュアルを策定している。	職員には周知しているが、保護者様は完全に周知頂いていないため、各マニュアル整備完了後、保護者様に周知予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		3	2	定期的に行う事は出来ていないが、非常時の避難に関する利用者様への指導は必要に応じて行っている。	不定期に行っており、十分とは言えないため、今後定期的な訓練の実施を計画していく。

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		マニュアルの整備あり。研修会も行っており、全職員が参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		5		現在、身体拘束が必要な利用者はいないが、必要な場合には、対象利用者様や保護者様に事前に説明をし了解を得た上で、計画への記載、実施、記録を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	医師の指示書は無いが、保護者様からアレルギーに関する検査結果を受け取っている。おやつや食事は、家庭から持参した物のみ摂取するよう対応している。	必要に応じて、保護者様の許可を頂き、医師からの指示等を受け、それに基づいて対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		5	事業所独自の事例集の作成はしていないが、事故や怪我に繋がるような事例に関して職員間で情報共有している。	事業所内で、これまでにヒヤリハットは起きていない。今後ヒヤリハット発生時には、法人全体での共有ソフトにて情報共有する。







